



<https://tkenbi-ouendan.jp/>

<発行> とっとり県美応援団

【トピックス】 秋の研修ツアー ～倉敷・大原美術館～ 2022年10月23日(日)
天候にも恵まれ、会員を含め41人が研修を堪能しました!

今回の研修会は倉吉発～倉敷へのバスツアーで、白壁の蔵屋敷、なまこ壁、柳並木など、趣ある景観が楽しめる美観地区へ。

<見学コース>

- ① 大原家旧別邸有隣荘の「マティス―光と色と」展(特別公開の最終日)
- ② 大原本邸語りい座(旧大原家住宅)
- ③ 大原美術館 新児島館(仮称)
※2022年11月30日で暫定公開終了、2024年度末グランドオープン予定
- ④ 倉敷国際ホテルでのランチ(大原美術館の特別講演あり)
- ⑤ 大原美術館(本館)

これらの各施設にて期間限定の展示や講演、各施設館内の趣きなどを堪能し、有意義な研修となりました。

【参加者の声】

- ・参加者が41人と多く、勢いがついた。元気づけられた。
 - ・美しい街並みもたっぷり散策できてよかった。研修、観光、共に楽しみました。(多数)
 - ・一日と言わず、一泊か二泊の研修をしたいです。
 - ・県立美術館に対して、何が応援できるのか真剣に考えないと感じてきました。
 - ・倉敷の街の歴史的背景(高い文化度・公益性・街の品格の高さ)を知ることが出来た。
 - ・大原美術館の魅力を余すところなく紹介して頂くものだった。
- 特に、美術館の存在意義について、その考え方に共感できた。鑑賞への気持ちが高まった。



新児島館(仮称)にて
ヤノベケンジ「サン・シスター(リバース)」



「秋の有隣荘特別公開 マティス―光と色と」
通常まとは見られないコレクションを鑑賞



「語りい座大原本邸」
(旧大原家住宅)の「降りそそぐ言葉」



大原美術館学芸統括の
柳沢秀行氏による講演

美術館建設現場見学会&対話会を開催

2022年12月4日(日)

・・・設計・運営を担うPFI事業者と初めて対面で意見交換



工事現場内で説明を受ける応援団

県と一体となって設計から開館後の運営までを担うPFI事業者「鳥取県立美術館パートナーズ」(企業10社)のメンバーと応援団の会員の総勢55名にて、美術館建設現場の見学と対話会を開催。

現場見学会では、

- 「実際その場で説明を聞いてみると多くの発見や気づきがある」
- 「具体的な完成イメージが湧き、開館が更に楽しみになる」
- 「美術館への関心を高める良い機会だ」
- 等の感想が聞かれました。

対話会では、美術館の設計や植栽計画等について
設計管理担当の長谷川龍友氏(横総合設計事務所)より、丁寧なわかりやすい説明を受けました。



対話会では事業者への質問も活発に

参加者からは植栽計画について

- 「鳥取ならではの草木を植えてほしい」
- 「芝は県産芝を使ってほしい」などの意見があり、パートナーズ側からは「前向きに検討したい」といったやり取りがありました。
- 多くの参加者と話題を共有することができ、次の活動目標も見つけられました。

応援団（後方支援チーム）では、2022年秋に倉吉市内の中学校にご協力いただき市内中学生に対して美術館に関するアンケートを実施。これからの未来のまちを創っていく若い世代が、アートや美術館を身近なものとして位置づけより豊かな感性や創造力を身につけるとともに「県民が主役になって活躍できる美術館」を盛り上げてほしいという想いを込めました。

結果は、美術館・博物館を訪問したことがない人も多くありましたが、それでも約7割は倉吉での県立美術館の開館を知っていました。新しい美術館で様々なジャンルの作品と出会い豊かな心を育てて欲しいと思いますし、美術館の雰囲気や魅力が、気軽に繰り返し訪れることのできる場所となればと願っています。

<主な質問項目>

- Q1 今までに美術館・博物館にいったことは？
ある： 63% ない： 37%
- Q3 鳥取県立美術館が2025年3月に倉吉市に開館。知っている？
知っている：66% 初めて知った：34%
- Q4 鳥取県立美術館でどのような作品を見たい？
1位 漫画・アニメ
2位 立体作品・フィギュア
3位 絵画（以下、写真→映像→彫刻と続く）
- Q5 鳥取県立美術館で期待するものは？
1位 カフェやレストラン
2位 美術作品の鑑賞
3位 気軽に訪れる事ができる場所



アンケート結果の詳細はこちら

「見えてきた 県立美術館の戦略」講演会を開催（1月22日 倉吉市上灘コミュニティセンター）

第1部「リス舎周辺再整備について」

倉吉市総務部企画課 課長 舩木 敏晶氏
課長補佐 藤井 一彦氏



リス舎・集いの広場周辺再整備の完成イメージ

応援団会員を含む35名が参加。まず倉吉市総務部企画課のお二人（メイン講師は藤井氏）より、美術館開館に向け駐車場増設を含む周辺地域の整備計画を伺いました。駐車場不足の課題の解決策の一つとして、美術館予定地に隣接する現在使用されていない旧リス舎を解体しその一帯に駐車場50台分を新たに確保すること、また美術館とパークスクエアを結ぶ屋根付通路の整備、トイレの改修、大御堂廃寺跡ガイダンス施設の整備などを行う旨お聞きしました。

第2部「見えてきた 県立美術館の戦略」倉吉博物館館長 根鈴 輝雄氏

県立美術館の収集方針に関する戦略を中心に講義が展開。特に、大きな議論を巻き起こし注目されているアンディ・ウォーホルの作品「ブリロの箱」の収集意図と背景について持論を力強く展開いただきました。

ウォーホルらにより起こった美術における価値観の世界的変化、これまでの美術にはない発想の誕生という事実を県内の子供たちが理解することにより、従来の常識にとらわれず柔軟に発想を転換し強しなやかな思想を身につけるといふ、美術館の担う美術の教育と普及の役割から見ても重要であることを学びました。



参加者からは「アンディ・ウォーホルのブリロの箱の価値の大きさを改めて感じる事ができた」「県美と倉吉博物館の協働について方向性を知ることができた」など満足の声が聞かれました。

「ブリロの箱」の物議により「皆が県美の術中にはまっている」と語る根鈴輝雄館長

応援団の活動を支援する寄付のお願い

当応援団は、鳥取県が行う「NPO法人や住民団体等の地域づくり活動をふるさと納税によって支援する新たな仕組み【ギフト（ぎふどり）】」の寄付対象団体として認められています。

この寄付の仕組みを利用して、私たちの思いを県民の皆さんに届け、活動の輪を拡大させるための広報予算を増やすことが目下の最大の課題です。どうか応援団を応援してください！

【ギフト】
とっとり県美応援団
へのご寄付はこちら



<寄付金の使い道>

応援団の広報紙『び〜・さぼ』の発行やHPの充実などの広報費（目標：年間300,000円）



鳥取県ホームページ「【ギフト】持続可能な地域づくり団体支援寄附金」より

とっとり県美応援団 入会のご案内

一緒に楽しみながら県立美術館を応援してくださる仲間を募集中！

<活動内容>

- (全体) パワーアップ研修会・講演会への参加 (チーム活動)
 - 広報：ホームページ作成・広報紙発行
 - 来館者対応：鑑賞活動支援・展示解説・ワークショップ支援など
 - 環境：周辺環境美化活動への協力・館内案内協力
 - 後方支援：県民の関心を高める取組・PFI事業者等との連携など
- <年会費>
個人会員：1,000円 法人会員：2,000円

「とっとり県美応援団」ニュースレター「び〜・さぼ」

- ① Be Supporters! (応援団になって！) と
- ② 私たち応援団員=けんび・サポーター 2つの意味があります

<発行者> 第3号 2023年3月20日 発行
とっとり県美応援団 団長 佐伯健二 <https://tkenbi-ouendan.jp/>
お問い合わせ・入会申込みは tottoriartoendan@gmail.com